

# 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

エペソ人への手紙一章二三節

## 2016(28)年 週 報

7月 3日

「妻が夫に従う理由」

第一聖日

第 3462 号

聖  
言

なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。 **エペソ5:23**

主の弟子となる⑫

第二課 バプテスマ——次のステップ

バプテスマは、弟子となるための次のステップです。なぜバプテスマなのか。当時の文化的な方法の一つであったということなのでしょう。今日、多くの教会でバプテスマが軽んじられています。私たちは、多くの場合、共同体という意識を喪失した、個人主義的な文化の中で生活しています。共同体の一員であるという一体感、私たちが生活していく上で非常に大切なことでもあるにかかわらず、往々にして私たちの個人的な関心や必要、願望のために、二の次にされて影が薄くなってしまうです。では、バプテスマは福音とどのような関係にあるのでしょうか。さらに、バプテスマは共同体という概念とどのような関係にあるのでしょうか。最初に学んだ使徒十ノ三四〜四八で、新しく信じた者は直ちにバプテスマを受けるように命じられています。この課では、マタイ二八ノ一六〜二〇を学びます。これは通常「大宣教命令」と呼ばれています。それは、イエスが出て行ってもっと多くの人々を弟子にするようにと命じておられるからです。イエスは基本的にどのように入信した人々を弟子とするかを語りましたが、その教えの一つがバプテスマです。共にこのテーマを学び、バプテスマに関して何が重要であるかを理解したいと思います。

(CIBTE主の弟子より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一六年六月二六日午前一〇時 礼拝 山本 稔牧師

### 「結婚の奥義」

「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。」(エペソ五ノ二二)

教会生活から一転一番プライベートな夫婦関係に移ります。極端です。しかし、これこそ、教会生活の本質をあらわす。すなわち、教会と家庭をつかいわけけるような二重生活をするなどいうことです。「従う」とは、自分の願いや意志の優先順位を神

様に対することを他の人のものよりも優先することです。パウロ「主に従うように」を付け加えることで、その意味をさらに強めています。聖徒として、神の関係の中で夫に従順にしなさいということ。このことが夫と妻、キリストと教会の類比を通じて確認されます。「ペテ三ノ四」「むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人から飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。昔神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。たとえば、サラもアブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れないう善を行えば、サラの子となるのです。」妻は夫に従いなさいと言うのは、男尊女卑の戦前の教育でなく、どんな夫でも主のように考えて尊敬するのです。そのために、イエス様のように十字架にかかるような苦しみを伴います。そこにこそ、夫と妻、教会と信者の関係が円滑になるのです。

二〇一六年六月二九日午後七時 祈禱会 山本牧師

### 「ペルシヤの滅亡とギリシヤの勃興」(ダニエル連講第二五回)

「ひとりの勇敢な王が起こり、大きな権力をもって治め、思いのままにふるまう。しかし、彼が起こったとき、その国は破れ、天の四方に向けて分断される。それは彼の子孫のものにならず、また、彼が支配したほどの権力もなく、彼の国は根拠ぎにされて、その子孫以外のものになる。」(ダニエル一ノ三、四)

ペルシヤの滅亡とギリシヤの勃興(一ノ四節)ダニエルがテイグルスの川岸で受けた黙示の続きで、ペルシヤ帝国も滅亡とギリシヤの勃興、そしてその分裂についての預言です。

南の王と北の王の争い(五ノ九)南と北の王国が同盟した事実と南の王国が北の王国に侵入して勝利をすることについての預言です。

一節 ガブリエルは十章に引き続き、幻について説明します。マソラや七十人訳では本節を一章としていますが、大部分の学者たちは内容上十ノ二一に続くものと、十章に入ると考えます。ダリヨスの元年という表現は他の章の歴史的言及と似通っています(7…1, 8…1, 9…1, 10…1)ダリヨスの元年はBC五三八年を指すと思われる。十ノ一三と二一で、御使いガブリエルがダニエルに夢を解釈しようとしたとき、御使いミカエルが助けたように、ここでは御使いガブリエルが御使いミカエルを助けて、支援したとあります。すなわち「私」は夢を解釈するガブリエルを指し、「彼は」ミカエルを指すものと見られます。

二節 真理とは十ノ二一に出てくる「真理の書」を言っています、前の箇所で言及していたようにこれは象徴的にイスラエルと世に対する神の計画を意味します。一般的にはペルシヤの王とはクロス（エズラーノ一）に続くカンビュセス、スメルデス（BC 五二一、五二一）ダリヨスを指し、第四の王はアハシュエロス主（クセルクセス）を指しているとみなされます。

三節「一人の勇敢な王」が起こるとありますが、この王とはだれでしょうか。おそらくギリシヤの最も偉大な王、アレクサンドロス大王（BC 三三六〜三二三）だと思われます。アレキサンドロスは BC 三三六父フィリップスを継ぎ、二〇歳でマケドニアの王となります。彼はメディア・ペルシヤの帝国を征服し、十年の間にインドとの国境まで領土を拡張します。しかし BC 三三二熱病によって三三歳の若さで死にます。

四節 アレクサンドロスが死ぬと、彼の部下たちが国を分割し支配します。アンティパトロス・カッサンドロスはマケドニア、リシマコスはトラキヤと小アジア、セレウコスはシリア、プトレマイオスはエジプトとパレスチナを支配するようになります。アレクサンドロスの子供は暗殺され血縁関係のない者の手に支配が渡ります。ダニエルは自らもバビロンに捕らえられ、そこで政治家として活躍した。その中でやがて世界を支配する、ペルシヤ、ギリシヤの事を預言した。多くの聖書学者は起こった歴史をあだかも昔のダニエルが預言したように書いていると説明している。そのなると聖書は信憑性のない神の言葉としての權威は失われるのである。そうではなく、ダニエルはやがておきる歴史を神から預言を書いたのである。

### K氏の恵みの証し

私は自分自身に自信が持てず、自分は役に立たない、生きていても価値がないものと思っていました。しかし、このたびある事件をきっかけに、私でも神様は役に立つ者としてくださっていることを体験しました。というのは、先日、お隣の奥様から電話がかかりました。内容はお隣はピアノ教室をしているのですが、出先から何かの理由で帰ることができず、すでに玄関で待っていると思われるレッスン生徒に「今日はお休みです。」と伝えて欲しいという内容でした。家にだれもいないので、勇気を出して外に出ると隣の玄関前に小学生の女子が立っていたので、電話で頼まれていたレッスンの中止を伝え、名前を聞いてかえつてもらいました。緊張感はありませんでしたが、わたしでも人の役にたつことができましたという充実感で涙がでてきました。神様は私のようなものを用いてくださったことを知りました。

### 仮庵聖会

日時 八月二一日（木）

または二二日（金） 一日二回

聖書 二テサロニケ

一章 山本 牧師 一章 足達 牧師

三章 西田 牧師